

平成23年度狂犬病予防注射業務関係者研修会の開催

平成23年度狂犬病予防注射業務関係者研修会が平成23年11月25日(金)新潟県自治会館講堂において関係者166名が出席し開催された。

主催者として、新潟県福祉保健部 北原良一生活衛生課長、新潟県獣医師会 楠原征治会長理事から開会の挨拶があり講演に入った。

行政説明では、生活衛生課の白井和也動物愛護・衛生係長が「狂犬病予防にかかるリスクマネジメント」と題し講演され、狂犬病の発生要因として不法上陸犬、コンテナ迷入動物、密輸等海外からの侵入が挙げられ、感染拡大要因として野犬、放し飼い、注射未接種犬が挙げられる。対応策として犬の登録と狂犬病予防注射が重要であり、また、災害時の避難に際しては飼い主の動物同伴の認識と避難所設置主体の受け入れ体制が大切であると説明された。

続いて、岐阜大学応用生物学部 人獣共通感染症学研究室教授の杉山 誠先生から「狂犬病を考える～その現状と将来～」と題してご講演いただいた。

講演では、狂犬病の発生の概要、日本で起きた人の狂犬病発生事例、狂犬病の診断法、国外での狂犬病流行事例等について解説され、非流行国としての日本の対応では、やはり検疫、犬の登録制度、犬のワクチン接種の三本柱が重要であること、人の咬傷事故対策としてワクチンの確保が重要であると述べられ、現在取り組んでおられる狂犬病の治療法、新しいワクチン開発への研究について紹介された。講演終了後活発な質疑応答があり、盛会のうちに研修会が終了した。



講演される 杉山 誠 先生



受講風景